

# 低温着火による火災に注意

## 全国でコンロを火元とする火災が続いています！

平成 28 年 12 月 22 日に新潟県糸魚川市で飲食店を火元として、120 棟を全焼する火災が発生しました。平成 29 年 8 月 3 日には、東京都中央区築地の「築地場外市場」においても飲食店を火元として 7 棟が全焼する火災が発生し、全国的に同種の火災が続いています。

また、長野県でも平成 31 年 1 月 5 日に長野市中心市街で飲食店が全焼した火災が発生しました。火災の原因は、「コンロの消し忘れによる過熱発火」や「コンロ火の伝導過熱による低温着火」によるものとして調査されています。

いずれの火災も「コンロ」を起因として出火していることから、「コンロ」による火災がどのような原因で発生し、どのようなことに気をつければ防止できるのかを理解し、日頃から防火の意識を持ち、火を使用することが重要です。



お宅のコンロは大丈夫ですか？



※ ステンレス板の変色は要注意！

## 「低温着火」はどうして起きるのでしょうか？

低温着火とはコンロの後ろ側、炉台・ストーブの後ろ側、屋根や壁の煙突等の貫通部から熱が木材に伝わり、木材に含まれている水分が徐々に減少して炭化し、長い間に木材を低温炭化させ、さらに熱が加えられると突然燃え上がる現象です。

燃えている物がないのに煙のにおいを感じた場合は、壁体内の木材などが炭化している恐れがあります。コンロ横のタイル壁やステンレス板を触ると、異常に熱くなっていますか？コンロやストーブの煙突などの熱源と壁などの間に十分な距離があるか、熱を遮断する対策が取られているか再確認しましょう。また、金属製の固定材から熱が伝わって火災になることもありますので、注意してください。

## 「低温着火」を防ぐためのチェック事項



### 【コンロ】

- 焼き台や壁部分にひび割れなどはありませんか？
- ステンレス板の変色はありませんか？
- 大きな鍋でコンロの炎が壁に接触していませんか？
- コンロにかけた鍋が壁に接触していませんか？

### 【煙突】

- 煙突の貫通部にめがね石は入っていますか？
- めがね石に亀裂や割れはありませんか？
- めがね石に壁材などが接触していませんか？
- 煙突に穴や接続部の緩みや外れはありませんか？
- 煙突がずれて木材等の可燃物等に接触していませんか？



間柱の焼失状況  
(下は茹で台)



間柱の焼失状況  
(ステンレス板を剥がしたもの)

これは、実際に低温着火が起きた写真です。ステンレス板が変色しています。ステンレス板を剥いでみると、中の間柱が炭化し、一部が焼失していました。

低温着火は目に見えない場所で燃えています。チェック表でひとつでも当てはまるものがあれば、要注意です。こまめに点検を行うようにしましょう。

## 「煙道火災」が多発しています！

これは薪ストーブの煙突の内部に付着したタールに引火し、煙突の内部で猛烈な勢いで燃える現象です。大きな音とともに、時には煙突が真っ赤になって、炎を吹き上げます。

煙道火災が起きると、煙突の内部の温度は 1,000℃ 以上の高熱になることもあり、煙突の周りの可燃物に着火してしまい、火災を起こしてしまう可能性があります。



十分に乾燥していない薪を焚いてしまうと、不完全燃焼を起こしてタールを作り出し、煙突内部にこびりついてしまいます。薪は十分に乾燥させてから使用しましょう。また、こまめに煙突内部の清掃を行いましょう。